



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年にひとりの日本人がインドシナ難民救援に参加したことを契機として誕生しました。以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころからだの飢餓」に応える働きをしています。

東日本大震災復興支援 仮設住宅の入居者に 「置き薬」を無償で提供

当機構では、東日本大震災の被災者復興支援として 7 月より「置き薬プロジェクト」を中京医薬品 (愛知)、パンのアキモト (栃木)、ヒューマンブリッジ (韓国) の協力によりスタートします。プロジェクトでは、避難所などから仮設住宅に入居された被災者に対して、風邪、頭痛、胃腸などの常備薬一式を入れた「置き薬」(約 7 千円) を無償提供し、2 年間にわたり追加で使用した薬代金も当機構側で負担します。薬の補充は中京医薬品が被災者を個別訪問して行い、被災者の健康状況も確認します。また、緊急時の備蓄用の食品として 3 年間保存がきくパンの缶詰 5 缶セット (4 千円) も提供、大規模な余震などでライフラインに支障が出た場合の緊急食料として活用していただきます。



小学生対象に夏キャンプ!

当機構では 7 月 25 日～8 月 6 日、被災地の小学生を対象にした「子どもサマーキャンプ」を山形県の月山ポレポレファームにて行います。期間中は、一回につき 25 名を定員として 2 泊 3 日のキャンプを 4 回実施します。キャンプの運営には、東京キリスト教大学などの学生ボランティアも参加します。参加費用は全額当機構が負担します。参加申し込みは、当機構東北事務局 022 (217) 4611 まで。

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛 (大阪市など)、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。ありがとうございます!

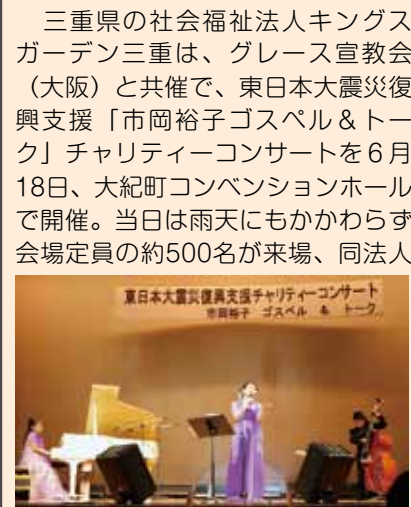
■発行者	岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■発行所	一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
		愛知	〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
	Web サイトアドレス http://www.jifh.org/ e メールアドレス general@jifh.org	広島	〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号 TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961
■郵便振替	00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構 ※支援金は随時受け付けております。	沖縄	〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540
		東北	〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2 階 E TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

ハンガー・ゼロ・サポーター大募集中!

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

キングス
ガーデン三重
チャリティー
コンサート



が創立 20 周年を迎えたこともあり、地元の大紀町と大台町から両町長をはじめ多くの住民が参加、また東日本震災復興支援への関心の高さを示すものとなりました。当日は、会場募金として 51 万 175 円 (企業協賛も含む) が当機構の東日本震災活動のために寄せられました。コンサートでは市岡裕子さんが、家族の絆の大切さを語り、歌とともに大きな感動を聴衆に与えました。同法人とグレース宣教会は、当機構の被災者支援活動に人財を派遣するなど多岐にわたり継続的に被災者支援をして下さっています。

- ☐ ハンガー・ゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口、協力します。(1 口 1,000 円)
- ☐ JIFH 会員になり毎月定期的に財的協力をします。
毎月 () 口、協力します。(1 口 500 円)
- ☐ 「世界里親会」に協力します。
説明書、里親会入会申込書を送ってください。
- ☐ 海外派遣スタッフを支援します。
毎月 () 円 () スタッフ指定
- ☐ 海外派遣スタッフを支える会の会員になり、
協力します。毎月 () 口 (1 口 1,000 円)
- ☐ 郵便自動引落の申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: _____ 男・女

フリガナ
住所: _____

(電話) _____

▼申込日: _____ 年 月 日 ▼

FAX・072-920-2155

ハンガーゼロ・サポーターのお申し込み拡大中です。運動への参加を感謝いたします。



日本国際飢餓対策機構

2011 No.252

7

飢餓対策 News



5 月仙台市若林区で行われた被災者応援イベント「サンピアフェスティバル」でシャボン玉遊びをする子どもたち

——未曾有の国難、日本は復興できるのでしょうか？
やなせ: (笑みを浮かべて) 出来るに決まってるじゃないか!あの戦争だって日本は焼け野原になって、原爆を二個も落とされて人が何十年も住めないとされたんだよ。それがあそまで復興できたんだから。日本人は粘り強く、正しく立派に生きている人々たちです。間違いなく復興できますよ!

ある雑誌のインタビューにアンパンマンの著者として知られている現在 92 歳のやなせたかしさんはこのように答えたそうです。

東日本大震災の現場では着実に復興の足音が響いています。世界中の人々が日本に関心を寄せ、支援の手を差し伸べてくださっています。私たちの震災復興活動のベースキャンプ (仙台 YWCA) にも本当にたくさんの地域、国から自らの手を差し伸べたいとボランティアのみなさんが集まってくださっています。また被災者の方々は避難所生活から仮設住宅での新しい生活も始まっています。

しかし、家族を失い心に大きな傷を抱えた人々がたくさんいらっしゃいます。前に向かって進みたいけれど

も、心が伴わない苦しみの中で悶えている人々が大勢います。そして、それでも前に進むしかないと思念に生きている人々の姿を目にします。被災地の学校では再開した日に、校長先生が生徒に「これからの人生は亡くなった友人のためにも生きよう」といわれ、子どもたちもその言葉を胸に刻んで、いろいろな制限の中でもすべてのことに一生懸命に取り組んでいます。

復興への道はまだまだ険しく、なかなか先が見えない闘いです。しかし聖書には「患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません」(ローマ人への手紙 5 章 3-5 節) という言葉があります。復興へは長い忍耐の時期、そして練られていく期間を経て希望が与えられることを示しています。しかし、冒頭のやなせさんの言葉にもあるようにこの国はきっと復興する、そして希望は失望に終わらない、そのことを信じて、日本国際飢餓対策機構は被災地のなかでボランティアさんや被災者の皆さんとともに東北での活動を続けていきます。

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。



家族の食事に用いる草を収穫するアエシャさん（国連ウェブサイトに）

ニジェール

》》300万人近くが飢餓状態に《《

国土の3分の2が砂漠の西アフリカのニジェールでは、300万人近い人々（国民のおよそ5分の1）が飢餓に苦しんでいます。ニジェールは厳しい旱魃の後、昨年過去最悪の飢餓状態に陥りました。日本国際飢餓対策機構は昨年、1,200家族の食料を支援しましたが、現在この地域の人たちの食料はほとんど底をついており、1日1食しか口に入れることが出来ません。

穀物価格が急騰

今年も状況が悪化するの確実です。というのはまず穀物の値段の高騰があります。ニジェールの人々の主食キビは、市場で100kg入りの袋が20,000フラン（約3,500円）になりました。数カ月前まで10,000フラン（約1,800円）で売られていたものです。

人々は自らの食料をもとめて、また家畜に食べさせるために、土地から土地へと移り歩き、ある人々は大きな町に、また不安定な政情にある隣国ナイジェリアにやむなく移住する人々もいます。一方西ニジェールのベニン北部では、大洪水による食料危機が起こっており、ここにも支援が必要となっています。

当機構は、現地協力団体バルナバス・ファンドと共に、この地域のリーダー Jacques Kangnide 師を通して今後3,500家族に食料

支援（約1,000万円分）の支援を行う予定です。

飢餓に苦しむ300万の西アフリカの人々を思うとき、ハンガーゼロ・アフリカ運動に協力して下さい。サポーターの皆様と共に、できるかぎりの支援を続けられたらと思います。

ハンガー・ゼロ サポーターは現在1,351口の支援を頂いています。サポーターの輪が広がり、さらに多くの人々に食料を届けることが出来るようご協力をお願いいたします。

国連のレポートから

夕刻6時半、ニジェールの首都から1,000km、ナイジェリア国境まで20kmの村にあるアエシャさんの家では、10人の子供が食料を待っています。今晚もほうれん草に似た味のする葉っぱ（写真参照）の煮物です。これが今日口にする唯一の食べ物なのです。

この地域の20万人以上の人々がこのような食事での半年間、命をつないでいました。政府は種などの支給を約束していますが、収穫までには時間がかかり育つ保証もありません。

●ハンガー・ゼロ・サポーターのお申し込みは、専用ウェブサイト <http://www.jifh.org/hungerzero/> からできます

Republic of the Philippines

サンアンドレスの人々

フィリピン駐在スタッフ 酒井慶子

アネス・エイズマはこの春ハイスクール（日本でいう中学校、4年制）を卒業しました。卒業式に出席させていただきましたが、私たちも感謝で胸がいっぱいでした。ご両親は内縁関係で、お父さんはいま一緒に住んでいません。お母さんのところには決まった仕送りがあるわけではなく、生活はいつも苦しく、お米の収穫時にはお母さん、二人の弟そしてアネスも働きます。1年の時、奨学金を受けて他の村の学校に通学しましたが、奨学金は1年で終わり、2年の時は町の学校に通い始めました。途中、お父さんの暴力から逃げ出すために家族でお母さんの仕事が見つけれられる村に転校。3年の時、HOLPFIが保護者とジブニードライバーの仲介、運営費の一部を支援して始まったスクールバスプログラムに参加、2年間は家からスクールバスで学校に通う事ができました。経済状況が厳しく交通費が出せないかもしれない、と母親に言われた彼女は「歩いてでも通学する」と宣言したそうです。

彼女は意志が強く聡明でスクールバスを利用する学生たちのグループの中でリーダーの一人として書記や会長の任を担い、活躍してくれました。コンピューターを上手に使いこなすので、名簿、手

紙、契約書の作成は彼女が一手にひきうけていて、よく事務所に来てコンピュータに向かっていました

彼女は2009年にはHOLPFIの支援でクリスマスのお祝いをしたので、2010年は学校に行く時に

—第3回—

アネス・エイズマ



もらう食費から1日1ペソを貯めませんか、と総会で提案しました。HOLPFIにも親にも頼る事なくクリスマスのお祝いをするためでした。でも保護者の反対に合い、この計画は承認されず、くやしさに目に涙を溜めていました。私たちにとって子どもたちが6ヶ月先を見据えて、貯金を始める、



●酒井慶子●
2008年4月、夫の酒井保とともに持続可能なコミュニティー開発に取り組むためフィリピン・ミンドロ島に赴任。スタッフトレーニング、少数民族の識字教室などに関わる。

ということは画期的な事でした。私自身は「やった！」と思いましたがそれは保護者には理解してもらえませんでした。泣くのを我慢しているアネスに「落胆しないで、がんばろう」とあとで声をかけるところりとうなずいていました。助けて下さる神様を信じ、いつも前向きです。

4月から小学校時代の先生の奥さんの紹介で奥さんの妹さんの家でお手伝いさんとして仕事を始めました。或は大学への道が開けるかも知れません。ITを学びたい、というのが彼女の願いです。

開発に取り組むとき、必要なのは新しい考え方、方策に耳を傾けること、また勇気を持ってそれにチャレンジする事です。この点若い人たちは新しいことに対して開かれています。アネスを見ていると希望が湧いてきます。



東日本大震災支援活動報告

住宅補修応援で被災者の負担軽減

ボランティアとして参加させていただき約2ヵ月が経とうとしています。主に東松島市東名、新東名地域で活動し、仕えることのできる喜びを感じています。

当初、家々を訪れると津波の跡がまだくっきりと家の外壁、内壁に



津波で浸水した住宅の床下の泥出しをするために1階の床板をはがす川口ボランティア⑥、作業は住人立ち会いで進める

残っていました。ある家では1階のすぐ天井まで津波の痕跡がありました。地震や津波で被災した自宅の再建は被災者に重くのしかかる課題になっています。修理や建て替えの経済的な負担は大きく、残った家の

2階や一時的避難先や仮設住宅などで暮らしながら模索しているのが現状です。その背景には、この地域は住めるかどうかの建築制限の内容が9月まで明確にならないことや修理費用が高額で支給される修理費でもほとんど賄えないことがあります。

私たちのここでの活動は主に地元の教会、NPOのボランティアと一緒に働き、地域の人々に仕え、出来る限り現地の必要に応じていくことです。

津波による屋内浸水には、下水や汚水や重油や様々な菌といった不衛生な物が混ざっており、それらがヘドロとなって床上下、内壁等に入り込み、取り除かないといけない環境にあります。庭の掃除、海水による一面菌だらけの内壁を剥がすこと、電動ノコやバールで床をめくり基礎のヘドロ出し（時に剥がさず潜ることも）、その後の石灰による除菌、また必要に応じて床の仮止めコンパネを張ること、これらが特に応急修理として必要とされ、少しでも負担



漁師の壊れた家から大切な地引き網を取り出す作業を助ける、もう一人の大工ボランティアの筒井さん

を軽減して被災者に寄り添うことが求められています。

ある方が言いました。「この全壊の家を見ると一人ではやる気も、生きる気力も無くなるよ。でもみんながこうして手伝ってくれることによって励まされ前に進むことができる」過酷な環境で生きている人からのこの言葉は実は私を励ましていました。

私は家族や人々から今まで多くの愛を注いでいただけてきました。その愛を今東北の地で自分の出来る限りの愛を注いでいけたらと願ってやみません。

(大工ボランティア 川口 真)



東京コンサートに仙台から参加した田口さん⑥と佐藤さん親子

ばいになってしまいました。

しかし、イ・ヒアさんの演奏はそれさえも越えて、僕の心に確かに強く響いてきたのです。神様の愛を深く感じる事ができました。本当に行ってよかったと、月並みな感想ですが、そう感じました。

仙台での復興支援はまだまだ必要です。今後も応援をよろしく願います。僕も倉庫ボランティアとして被災者の皆さんの復興を精一杯応援していきたいと思います。

(倉庫ボランティア 田口 創)

物資支援を通して心の交流も

仙台市若林区にある当機構の支援物資倉庫には、毎日120～160組の方々が来られます。津波で家を失った方、仮設住宅に入居された方、避難所に入れずアパートや親戚の家などで生活している方々で、倉庫には行列ができるようになっています。宮崎や愛知の農家から届く野菜、日本のあちこちから送られてくる衣類や食糧、日用品、それらが夕方にはほとんどなくなることもあります。

6月6日、アメリカから支援物資が大量に届きました。水、靴下、子どもと大人用オムツ、キルト、バッグ、文房具、おもちゃなど種類も多岐にわたっています。支援物資を手みなさん「すごい！」と感嘆の声。物資にはメッセージが書かれ、手作りとなる物を手にすると自然にみんなの表情が優しく穏やかになります。

この支援物資はアメリカのオレゴン州在住の鈴木さんご夫妻のよびかけで届けられました。震災被害の日本のために何か出来ないかとずっと考えておりましたが、近所にも同じ思いの方がいることに気づき、REACH JAPANという団体を設立。その過程で当機構協力企業パン・アキモトと出会い、今回の支援が実現しました。

被災された方々は、今日もさまざまな不安を抱えながら一生懸命生きておられます。ボランティアも一生懸命働いています。そのボランティアのために、冷たいジュースやお菓子の差し入れをして下さる地元の方や炊き出しの後、避難所から出てきて拍手と笑顔で見送って下さる被災者の方々もおられます。

皆さんの愛の行動に押し出されて



伊藤スタッフ⑥成川ボランティア

仙台の物資倉庫には、震災発生から今まで途切れることなく、たくさんの方々が足を運んで下さっています。

1ヵ月近く滞在してくださる方、早朝到着後に日中活動して、夜行バスで帰る方もおられます。そして国内だけでなく、韓国、カナダ、米国からも来てくださっています。ボランティアの方々は口々に「惨状の大

きさに、自分のしている事があまりにも小さく何の役にも立っていない気がする」といわれます。たしかに被害は甚大です。けれども床下から泥が掻きだされ、庭の瓦礫がどけられ、食べ物提供される等、皆さんの支援によって被災された方々の昨日の状況からの変化は本当に大きい一歩なのです。

遠方から多くの犠牲を払って、東北の為に働いて下さる皆さんを見て、仙台に住む者として、またJIFHスタッフとして「ありがとう」という言葉では表しきれない気持ちをどう伝えればいいのか分からずにいます。何でこんなにも多くの犠牲を払ってくださるのか、何でこんなに愛されているのかと思うと自然と泣けてしまうのです。

仙台の物資倉庫では被災者との心の交流も生まれつつある。物資倉庫は、宮城県亘理地区にも新たに設置しました

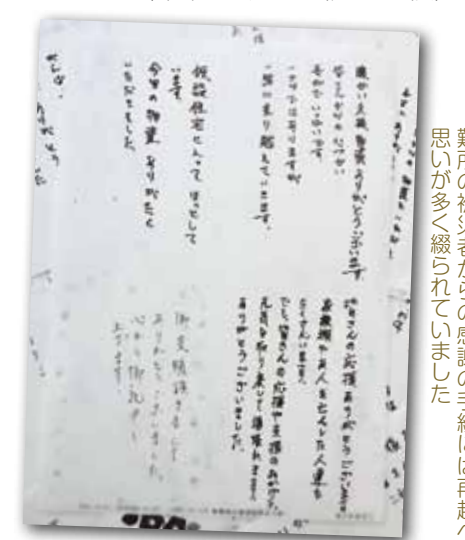


みなさんのお手伝いに行った者が、そのような優しさや厚意を受け、感謝の気持ちに満たされて帰途についています。自分のことだけではなく他の人の必要を考えて行動に移すとき、心からの支援と絆が生まれることを日々体験しています。

(緊急支援担当 向頭、吉田)

今後も私たちは、東北事務局を拠点として、被災者の方の大きな変化の一步を担い続けることができるように、しっかりと根をおろして働きたいと思います。

(東北事務局 伊藤 綾)



仙台事務局に届けられた宮古市田老地区避難所の被災者からの感謝の手紙には再起へ思いが多く綴られていました

緊急支援募金 感謝致します

集計：79,511,506 円

(5月末現在、国内と海外の合計)

内訳 国内 47,085,277 円
海外 32,426,229 円

●募金の送り先は
郵便振替 00170-9-68590
日本国際飢餓対策機構
記入欄に「東北地震」と明記。



素晴らしい演奏をされたイ・ヒアさん⑥と上原令子親善大使⑥

ハンガーゼロ・チャリティーコンサートの募金総額は1,288,496円でした。ご協力感謝します。

米国のシカゴ日本人教会の小針牧師は、東日本大震災で福島県の母と宮城県の親族が被災、突然の地震と津波、原発事故の知らせで心揺れ動く中で地元ラジオに出演されました。それをきっかけに地元キリスト教会や見知らぬ個人から多数の支援の手がのばされたことを大きな励みとして、現在、シカゴから東日本大震災の被災者への応援を飢餓対策機構とともに継続しておられます。



「日本の地震被害の現状を伝えて…」 米国在住日本人牧師に支援の申し出が相次ぐ

Qシカゴでいつ日本の地震のことをお知りになりましたか？

朝の4時半頃に地元の24時間ラジオWBBMから電話がかかってきました。「小針さんは日本人だから、日本の地震の情報に詳しいのではないか」ってね。実は私の母は福島県に住んでおり、その時点では安否すらわからなかったんです。母は福島原発から80キロメートルのところに住んでいるのですが、無事が確認できたのは地震の3、4日後でした。そのとき母は弟のところに身を寄せていることがわかり無事が確認できま

いたので、ラジオで自分の親戚がいま行方不明であることを伝えてぜひ祈ってくださいとお話しました。そうしたら放送後に「この地区に日本の地震の被災家族がいる」ということで思いもよらない反響がありました。地元の韓国教会から「ぜひ教会にきて地震のことやあなたの家族のことを話してください」と言われたので、家内と二人で出かけて10分ほどお話ししました。そうしましたらすぐにシカゴの100の教会から日本のための救援金を集めるとの申し出を受けました。本当にびっくりしました。郵便局では女性局員さんに「小針さんですね。お母さんのために祈ってます」と涙を流して声をかけられたり、ミシシッピーの59才の全然知らない女性の方から「私の家に部屋があまっているのでお母さんと呼んであげて」と言われ、それを福島の母に電話で伝えると泣きながら感謝していました。

避難生活している母のことも気がかりですし、石巻の親戚2名は亡くなったことがわかり、その親族の慰めのためと、米国で集められた救援金をもって、被災者支援を続けているキリスト教会の活動を応援しようと思い「石巻キリスト教会」（伊藤諭牧師）を訪ねま

した。その時に被災者支援活動を応援しているJIFHの清家さんとも出会いました。

先生！祈ってください

訪ねた女川の避難所ではちょうど被災者を励ますためのクラシックコンサートが行われおり、近隣から100名位の皆さんが集まっていました。コンサートの後、挨拶の機会があり、その後「先生祈ってください」と声をかけられ突然でしたが、「神様どうかこの人々にあなたの愛の光をあててください」と祈らせていただきました。その時、ほんとうに来会された多くの人々が涙を流され、私も神様を信じたいと言われました。私も涙を流しながら「この人たちのために祈って助けていかなければならない」と強く思われました。

❖ ❖ ❖ ❖

小針牧師は翌日、亡くなれた親族との対面の際にも、祈りを共にする機会が与えられ、皆で手をつないで祈りながら家族を励まされました。

当機構の被災者支援活動には、国内とともに日本の復興のために米国や韓国、マレーシア、フィリピン、タイからも大量の物資や資金協力が寄せられています。

世界里親会 活動地のこども



ボリビアの子どもたちから 感謝の手紙が届きました!!

世界食料デー芦屋大会実行委員会では、昨年10月に第20回「芦屋国際児童画展」を開催、日本の子どもの絵と共にフィリピン、バングラデシュ、カンボジア、ウガンダ、ボリビアの5カ国から送られた児童画を、JR芦屋・駅前広場地下部で展示しました。

昨年のテーマは「毎日食べているもの」でした。絵を描いてくれた開発途上国の子どもたちへプレゼントとして、株式会社サクラクレパスが絵の具やクレヨンなど画材を提供して下さっています。毎年審査員のコメントと共にこれらの画材が贈られます。

プレゼントを受け取ったボリビアの子どもたちから、感謝の手紙が届きましたのでその一部をご紹介します。

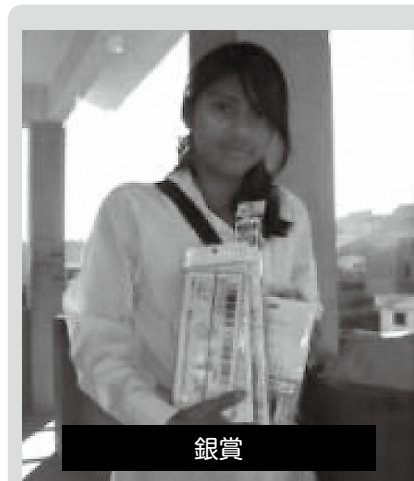


芦屋市長賞

♥Florentino Nina Choque君
プレゼントとコンテストをありがとうございました。僕は、時間がある時に近くの風景の絵を描いています。どうかこの働きを続けて下さい。



♥Miguel Angel Diaz Callaguara君
まず神様に、それから飢餓対策機構に感謝します。近所の子もたち全員が飢餓対策機構の支援を受けられるといいのに。愛をこめて。（参加賞）



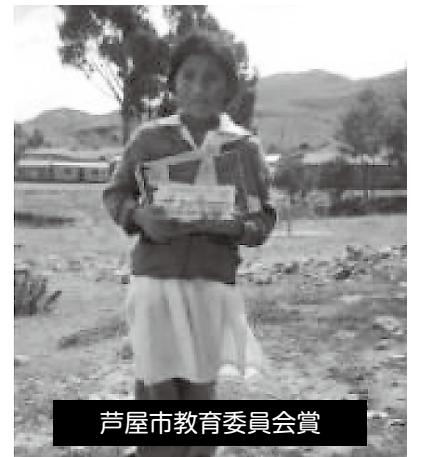
銀賞



♥Marisol Flores Huallpa さん
プレゼント、とてもうれしいです！はげみになります。来年も描きたいと思います。

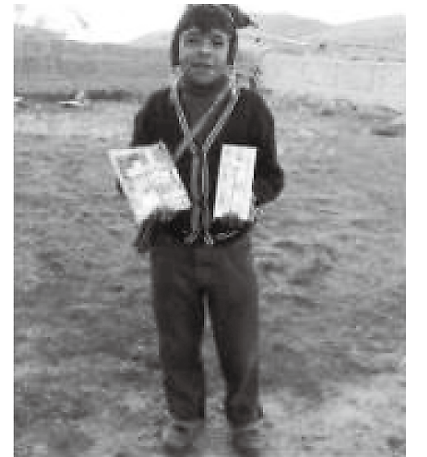


昨年の芦屋国際児童画展



芦屋市教育委員会賞

♥Lucy Mamani Padillaさん
とってもすばらしいクレヨンをありがとうございます。大切に使います。来年は一等賞がもらえるようにがんばります。神様の祝福がありますように。



♥Max Edwin Fernandez Ticona君
日本のみなさんこんにちは、プレゼントをもらって嬉しいです、とても感謝しています。僕はボリビア、ラクヨのチャヤに住んでいます。（参加賞）



石巻キリスト教会は、震災直後から被災者への物資配給、炊き出し、心の癒しを続けている。このため当機構は、物資の提供や建物の補修工事を行ってその活動を応援しています。写真は修復を終えた最初の日曜礼拝、近隣から被災者も多数参加した。

した。しかし、母から宮城県石巻市の親戚が津波で流されたことを聞きました。

Qその後どうされましたか？

先のラジオ局に「ぜひ日本のことを伝えて欲しい」と頼まれて